

2014芦屋市U 1 4トレセン親善試合報告

ラオスの首都ビエンチャンにある国立競技場でU-14のラオス代表と試合をしました。芝生の状態は、日本に比べると芝が長くパスを出すとボールが走りにくい状況の中、旅疲れのコンディションをより過酷にする環境でした。また普段日本にいとプレーすることができない大きなスタジアムとサポーターの前で、国を代表する選手相手に試合ができたことは、子供達にとって貴重で素晴らしい経験になったと思います



●8月26日（火）午後からラオスU-14代表と親善試合を行った。

V S U-14ラオス代表 1-6 (0-1、0-4、1-1) 30分×3本と選考メンバーを全員出場出来るように変則的にゲームを組んでもらいました。

ラオス代表のプレースタイルはシンプルにボールを動かし縦に速く攻撃し、選手全員がハードワークを厭わない非常に良いチームでした。

芦屋トレセンは明らかに相手チームよりもチームの完成度が低く各選手が自分の役割を理解できていませんでした。少しでもゲームが締まる様に各ポジションでの守備のやり方を徹底してやらせました。3本目は相手の運動量が落ちてきた事もあり、芦屋トレセンがゲームの主導権を握れたのですが立て続けに訪れたチャンスを決めきれない決定力不足を出しました。



●8月27日（水）午後からラオ・TOYOTA U-14と親善試合を行った。

V S ラオ・TOYOTA U-14 2-2 (0-0, 0-5, 1-1) 30×3本

昨日のゲーム同様30分×3本と変則的にゲームを行いました。

ラオ・TOYOTAはラオスのプロサッカーリーグである『ラオス・プレミアリーグ』日本で言うJリーグになりますがプロサッカーチームの下部組織U-14リーグチャンピオンです。

現地関係者からは昨日対戦したラオス代表よりも強いという声があり、昨日と同様に相手チームに主導権を与える試合展開となりました。

ラオ・TOYOTAはラオス代表とは違い毎日チーム練習をしている分、連携がとれていてスムーズにゲームを運ぶので昨日よりもスピード感が違いました。

そう言った中でもスタメン組は引き分ける頑張りを見せていたのでよく頑張っていました。

総括として、トレセンは選抜チームなので個人の力が必要とされます。今回の選手を見ていても技術、戦術、コミュニケーション力と全てに低さを感じました、特に戦術面ではサッカー理解度も含むのですが小学校で理解をしておかないと駄目な事が理解出来ていない等、普段4種で指導する私としては4種での指導レベルと中学部活での指導レベルに問題があると感じました。

